

# 第3期中期計画の 概要及び実施体制について

平成26年3月31日  
独立行政法人海洋研究開発機構



# 第3期中期計画期間における基本方針

## 1. 基本認識

第3期中期計画においては、海洋研究開発機構(以下「海洋機構」という。)が、平成24年10月23日に策定した、長期ビジョンの目指す方向性を踏まえつつ、第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)及び新たな海洋基本計画(平成25年4月26日閣議決定)や我が国の科学技術イノベーション総合戦略等に積極的に貢献していく。

## 2. 基本方針

海洋機構が長期ビジョンや海洋基本計画に示されている海洋立国日本の実現を支え、新たな科学技術で海洋・地球・生命の統合的理解への挑戦を果たし、世界を先導する研究機関を目指すべく、下記の基本方針を念頭に置くものとする。

- 国家的・社会的なニーズを踏まえた戦略的・重点的な研究開発を推進し、画期的・社会的な成果を創出する。
- 研究者が組織にとらわれず柔軟に研究を実施できる体制とし、新たな融合領域・科学の開拓やイノベーションをもたらす挑戦的・創造的な融合研究等を実施する。
- 上記の研究開発を支え、また先導する研究基盤の整備を行う。
- 国際的な活動の強化と組織の国際化を推進し、国際的な頭脳循環の拠点となる。
- 大学及び民間企業等との連携やネットワーク構築を進め、研究開発成果のより効果的な社会実装・社会還元を行う。
- 海洋科学技術分野における我が国を代表する機関として、世界の中での役割を明確にし、国際的に大きな役割を果たす。
- 研究環境の整備や国内外の大学・研究機関との連携を進め、優れた人材を育成する。



# 第3期中期計画におけるポイント

(平成26年度～30年度)

## 事業の明確化及び役割の重点化

- 国家的・社会的なニーズを踏まえた戦略的・重点的な研究開発として7つの中期研究開発課題を選定。社会に新たなソリューションを提供するとともに、画期的・社会的な成果を創出していく。
- 海洋科学技術分野における我が国を代表する機関として、世界における役割を認識し、国際頭脳循環の拠点を目指すことを明記。国内外の大学・研究機関との連携を強化するとともに、優れた人材の育成に取り組む。

## 実施体制の見直し(H26.4.1～)

### (1)研究部門

第3期中期計画の達成に向け、これまで分野別に設置してきた3研究領域(14プログラム)、2リーディングプロジェクト、システム地球ラボ及びアプリケーションラボを、分野を越えた総合的な研究を活発化するため、課題解決型の戦略研究開発領域(5研究開発センター、アプリケーションラボ及び2プロジェクトチーム)と、課題の根幹となる分野の先進的研究を行う基幹研究領域(11研究分野)の2領域に再編。

### ① 戦略研究開発領域

出口指向の課題への対応、国際科学プロジェクトの主導等、重要課題を迅速かつ集中的に実施。このため、課題解決型の研究開発組織として研究開発センター、アプリケーションラボ及びプロジェクトチームを設置。

### ② 基幹研究領域

出口指向の課題やイノベーティブな課題の根幹となる分野について、新たな科学的知見の開拓に資する先進的な研究を行う。このため、共通の科学目標を目指すフラットな組織として「研究分野」を設置。基幹研究も戦略研究に欠かせない位置付けとして中期計画の達成に積極的に貢献していく。

### (2)開発・運用部門

情報基盤の開発・運用を一括して推進するため、旧地球シミュレータセンターの開発・運用機能と、旧地球情報研究センターのデータ・サンプルの管理・公開機能とを統合し、新たに地球情報基盤センターを設置。



# 第3期中期計画期間における 主要な7つの中期研究開発課題

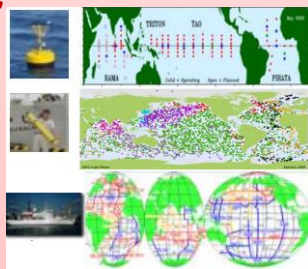
## (1) 海底資源研究開発

海底資源の成因解明に関する研究や、効率的な調査手法の構築、開発にともなう環境影響評価の手法構築等、これまでに培った経験と技術を活かして、海底資源の利活用に貢献することを目指す。



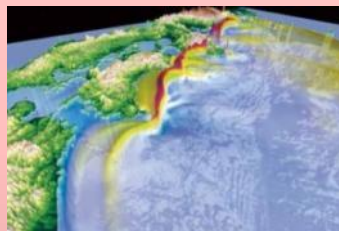
## (2) 海洋・地球環境変動研究開発

地球環境変動について、観測に基づきそのプロセスや実態を統合的に理解するとともに、地球環境変動を精密に予測するための技術開発を進める。また、地球環境の変動を正確に把握して、これに適応する方策立案に貢献するとともに、防災・減災に役立つ情報を社会へ発信する。



## (3) 海域地震発生帯研究開発

最新の海域観測技術、先進的なシミュレーション研究、モニタリング研究を駆使して地震・津波発生の実態像を明らかにすることを目指し、地震津波災害の軽減に資する成果を提供する。



## (4) 海洋生命理工学研究開発

深海底や海底下に広がる極限環境生命圏の調査を行い、生態系の構造や進化の解明等に関する研究開発を行う。また、極限環境に棲む海洋生物特有の機能を活かしたイノベーションの創出をめざした応用研究にも取り組む。

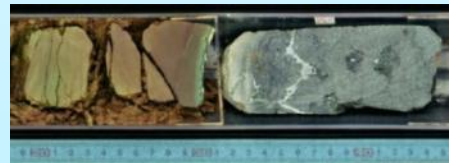


## (5) 先端的基盤技術の開発及びその活用

- ・我が国の海洋科学技術の基盤となり、新分野を開拓する先端的基盤技術を開発。
- ・保有する先端的な研究基盤を活用した研究開発に組織横断的に取り組む。

### ① 先端的掘削技術を活用した総合海洋掘削科学の推進

国際深海科学掘削計画 (IODP) を推進しつつ、地球内部を構成する物質の直接採取・分析や現場観測、数値解析手法やモデリング手法等を用いた全地球内部ダイナミクスモデルの構築を実施するとともに、超深度掘削技術の発展に寄与する。



### ② 先端的融合情報科学の研究開発

地球科学分野の計算に適した「地球シミュレータ」を最大限に活用し、これまでに得られた知見を領域横断的にとらえ、拡張・展開し、よりよい将来に向けたアクションと解決策を導き出すことをめざした、海洋地球科学における先端的な融合情報科学を推進する。また、社会に利活用可能な付加価値情報を創出するための研究開発、情報を効果的に社会に還元するための基盤構築を進める。

### ③ 海洋フロンティアを切り拓く研究基盤の構築

国家の存立基盤に関わる技術や、広大な海洋の総合的な理解に必要な技術の開発を進める。また、これを推進するために、萌芽的な研究基盤システムや、システム構築に役立つ基礎的技術の研究開発に挑戦する。

